

## グループディスカッション ワークシート

グループ名: C

【テーマ】「武蔵野市における協議会の課題と目標  
～5つの専門部会の活動報告を踏まえた今後の展望～」

### ワーク1:「各部会の活動報告を受けて」

- ・新型コロナウイルス感染症に影響された2年だったが、各部会で工夫して取り組むことができていたと思う。特に地域移行部会の活動では、各機関が協働しながら活動することができたと感じる。
- ・課題に関して具体的な活動ができていたと思う。活動を通して今後の課題も見えてきた。
- ・各部会が活動を進めているが、親会が横串をしっかりと入れていると感じた。
- ・2年前まであった「はたらく部会」の機能がどの部会に引き継がれていたのか気になった。
- ・差別解消部会の関東バスとのやり取りについて、チャット形式を用いた方法が良かった。感染症蔓延に伴い、対面でコミュニケーションができない中での工夫策だったと思う。
- ・緊急時の対応について相談員として日々悩んでおり、地域生活支援拠点で提言あった「緊急を緊急としない」ことについて同感した。まずは対象者をあらかじめ把握しておくことから必要だと思う。日常的に横のつながりをつくっていくことが大事だと感じた。
- ・部会で取り上げられた各地域課題が関連しており、関係づくりが共通のキーポイントと感じた。

### ワーク2:「今後の協議会活動に向けて（課題と目標）」

ワーク1を踏まえ、今後本協議会が取り組むべき課題と目標などを意見交換する

【課題と目標】「地域での連携強化」。各部会や自立支援協議会がテーマとして挙げていた、「連携して地域課題に取り組むこと」について、いかに連携していくか、ということが課題である。独立して活動するのではなく、地域における繋がりを強化しながら活動することが目標だと考える。

#### 【上記に関する各意見】

- ・各機関の連携について、感染症蔓延が影響したのではないかと。今後は実際に顔を合わせ、専門性の垣根を超えていくことを一歩ずつできたら良いのではないかと感じている。
- ・「地域」で協働をすることを考えることが課題と感じた。長期入院者に関しては、アパートを借りることができるかなどの不安が多く、居住支援の取り組みが課題だと感じている。
- ・働いている世代が増えているため、PTAの担い手も減り、教育に関しても繋がりが希薄化している。
- ・「脱施設」と言われているが、障害福祉サービスから高齢サービスへの移行についても、連携を取りながら考えていく必要を感じる。
- ・専門家だけではなく、民生委員など、専門家と住民の間の方達も巻き込んでいきたい。
- ・活動を通してピアサポーターの存在の大きさを感じている。実体験の共有から学ぶことも多く、福祉サービスの職員だけではなく、違う立場の人も活動に定期的に参加することの重要性を感じた。
- ・働いている方は福祉サービスにつながっていない方が多い。繋がり先が「あいる」だけという方もいる。その方達について困ったときや緊急時の対応について、相談先がないことを課題と感じる。また、働いている障害者について、退職後の居場所についても課題と感じている。日頃から連携したい。
- ・感染症により、重度障害者の余暇活動や社会参加が制限されたと感じている。「アフターコロナ」と言われる中で、どのようにそれらを復活させていくか、各関係機関と話し合っていきたい。